科目名	認知心理学特論（２）
科目属性	専門科目Ｂ群
担当教員	伊藤　一美
単位数	２単位（SC　０単位）

【授業の目的・ねらい】
【授業概要】※認知心理学特論（１）と履修の順序は問わない
　本科目では、認知と言語に着目し、その発達過程にかかわるさまざまな要因について、理解を深めることを目指す。言語は、人間が他者とコミュニケーションをとるために、大変重要なツールのひとつである。従来の発達心理学では、言語の獲得過程は、ひとつの道筋であると考えられていたが、最新の脳科学の成果から、その道筋はさまざまであることが知られている。また、知的障害のある人は言語の獲得とその活用につまずきを示すことが知られており、そのメカニズムを理解することは発達障害の心理を理解することにつながると考える。また、高次脳機能障害により、言語を話したり、理解したりすることに困難さを抱えることがある。これらの言語の諸問題に焦点を当て、とくに、発達障害を中心とした障害のある人の支援のあり方について研究を深め、教育･医療･福祉のそれぞれの場において、その支援方法を検討できる力をつけることを目指したい。

【授業の到達目標】
この授業の具体的な到達目標は、以下の４つである。
1. 認知心理学の基礎を理解する
2. 言語とコミュニケーションの機能を理解する
3. 言語とコミュニケーションの支援のあり方を研究する

【授業計画】
　全 15 回の授業計画は以下のとおりである。
第１回　認知心理学の基礎
第２回　記憶の過程
第３回　記憶と知識
第４回　言語とコミュニケーション　会話の成り立ちと特徴
第５回　言語とコミュニケーション　発話の理解
第６回　言語とコミュニケーション　目撃証言
第７回　文章を読むこと、書くこと
第８回　１次的ことばと２次的ことばの機能
第９回　書くことと考えること
第 10 回　リテラシー習得と認識過程の変化
第 11 回　推敲課程におけることばの表象の関係
第 12 回　書くことによる新しい考えの発見
第 13 回　思考のメカニズム
第 14 回　メタ認知の発達とその機能
第 15 回　言語・コミュニケーションのアセスメントと支援
科目修得試験

【評価方法】
　「レポート評価」(50%)、「科目修得試験」(50%)の割合で総合して評価する。

【教科書】
仲真紀子(編著).(2010). 認知心理学:心のメカニズムを解き明かす (いちばんはじめに読む心理学の本 4),ミネルヴァ書房.ISBN-13 ： 978-4623056835

【参考図書】
宮本信也(編).(2019).学習障害のある子どもを支援する,日本評論社.
　ISBN-13 ： 978-4535563735
太田信夫･厳島行雄(編). (2010). 現代の認知心理学２記憶と日常(認知心理学会監修), 北大路書房.　ISBN: 978-4762827570